

furnish now



MALAYSIAN
INTERNATIONAL
FURNITURE
FAIR 2026

4-7 MARCH

MITEC & WTCKL
KUALA LUMPUR

なぜ世界は マレーシア製品を 求めるのか

p8 - 13

Why The World Wants What Malaysia Makes



Living Roomset by Ecomte

木製家具が今も 流行っているなんて

p3 - 5

木製家具はすでに時代遅れになったのだろうか？ マレーシアの職人たちが、木製家具がいつの時代でも色あせることなく使われ続ける理由を証明する。

もっと快適に働ける ワークスペース

p6 - 7

出勤せよ。働け。退勤せよ。あの時代は終わりを告げようとしている。人々の実際の働き方に沿ったデザインやハイブリッドモデルの普及が進んでいる。

私の将来は バラ色ですか？

p14 - 15

スマートな暮らしは、もはや単なる利便性だけではなく、有効に利用すべき技術へと進化している。そしてビジネスにとってもより重要なものとなっている。

テーマはSource Connect Trade



こんにちは！
前回の号をご覧になった方はお気づきかもしれませんが、Furnish Nowは少しリニューアルしました。業界が絶えず変化し、テクノロジーの進化とともに創造性が新たな高みに至っている今、私たち自身もその変化を反映させるのは当然のことです。今年のテーマ「Source・Connect・Trade」は、展示会場だけでなく、本号の各記事にも反映されています。

カバーストーリーでは、世界がマレーシアの家具メーカーに再び注目する理由を検証します。現地メーカー、

バイヤー、業界団体が「タンガム」というデザイン育成プログラムを軸に、信頼性と適応力に基づいて構築され、深く相互に関連したエコシステムとしてどのように機能するのかを描き、マレーシアがグローバル市場から信頼される調達拠点となる背景を解き明かします（なぜ世界はマレーシア製品を求めるのか 本紙8ページ）。

また、マレーシアのメーカーが新たな世代に向けて木材の在り方を再考し、時代を超えて木の素材を現代に根付かせる活動が続けていることを紹介します（木製家具が今も流行っているなんて信じられますか？ 本紙3

ページ）。

さらに、xOrdinaryのクリエイターたちが商業空間・公共空間デザインへの影響力を高め、思慮深く家具を選びながら、病院やロビー、共有空間の雰囲気をいかに静かな共有環境に変えているか解き明かします（家具の意外な設置場所 furnish now2025年12月号完全版22ページ）。

ビジネスの変革を直接伝えるストーリーも掲載。よりスマートな働き方と未来対応システムの特集（Hey Siri、私の将来はバラ色ですか？ 本紙14ページ）から、アジア太平洋地域におけるオフィスの進化するニーズ（もっと快適に働けるワークスペースを考える 本紙6ページ）まで、各特集がエコシステムのさまざまな側面を映し出します。

ビジネスマッチングプログラムの新たな取り組みや、インターナショナル・バイヤーズラウンジ、MIFFエリートラウンジといったお馴染みの会場スペースは、皆さまがMIFF2026で時間と人脈を最大限に活用できるように設計されています（どうぞお掛けください。2026年はすぐそこに furnish now2025年12月号完全版3ページ）。

これらの特集の全てが、自然な流れで将来へとつながります。

MIFFは、1995年の開催以来、今年で32回目となります。規模が拡大し続ける一方で、私たちの成長しようという意欲もさらに高まっています。MIFFは、2026年3月4日から7日にMITECおよびWTCKLで開催されます。東南アジア最大級の家具見本市であり、家具調達、パートナーシップ、そして真のビジネスの対話の場としての役割を果たし続けます。

変わらぬご支援を賜っております読者の皆さま、寄稿者の皆さま、そしてFurnish NowとMIFFを世界の家具業界の議論の中心に据え続けてくださる活気あるコミュニティの皆さまに、心より感謝申し上げます。ここに皆さまをお迎えできることを楽しみにしております。そしてこれから始まるエキサイティングな道のりを共に歩んでまいりましょう。

MIFFゼネラルマネジャー ケリー・リム

furnish now2025年12月号完全版（英語）はこちらでご覧になれます▶



2000億円の成約 MIFFに世界の注目

マレーシア国際家具見本市 2026年3月4日～7日開催

東南アジア最大規模の家具見本市「マレーシア国際家具見本市（MIFF）2026」（インフォーマ・マーケット・マレーシア主催）は3月4～7日の4日間、首都クアラルンプールのマレーシア国際貿易展示センター（MITEC）、ワールド・トレード・センター・クアラルンプール（WTCKL）の2会場17ホールで開催される。

第32回を迎えるMIFFの今年のテーマは「Source Connect Trade」。展示面積10万平方メートルに700超が出展、来場者は140の国と地域から2万人余りを見込む。2025年の現場成約額は13億1000万ドル（現在のレートで約2000億円）だったと推計されている。

MIFFが長年にわたり支援しているマレーシアの家具産業は世界レベルの輸出インフラ、熟練した労働力、戦略的な立地、多文化に対応できるビジネス環境を備え、約42億ドルの収益を生み出している。

またマレーシアは、中国に加えてもう1つの国や地域に拠点を分散させる「チャイナ+1」調達戦略の受益国でもある。卓越した職人技、デザイン力、供給の信頼性、そして強固な輸出能力を求める世界のバイヤーの注目が集まってい

る。

ネットワークキングセッションやセミナーなどを通じて、世界のバイヤーと国内の優れた製造業者を結びつけることで、MIFFは輸出を促進し、国際市場におけるマレーシアの地位向上に貢献している。さらなる成長を求めてMIFFは2026年、マレーシア貿易振興機構（MATRADE）を国際貿易パートナーとして新たに迎え入れた。MATRADEの広範な国際ネットワークを活用し、マレーシア家具のグローバルなプロモーションをさらに推進して、バイヤーと出展者のビジネスチャンスを強力に支援する。

MIFFのイベント「家具デザインコンペティション（FDC）」は16回目を迎える。今年は「遊び心。実用性。目的性：アルファ世代のための家具」を課題として、5歳から9歳の子ども向け寝室家具の作品募集が行われた。その結果が6日に会場で発表される。受賞者らとメーカーを結ぶ「MIFF FDC CLUB」からも新たな製品が生まれており、会場でもその成果が披露される。

「xOrdinary Showcase（エックスオーディナリーショーケース）」は、MIFFの企画展として5回目を迎える。今年は「幸福」をテーマに、



新進デザイナーたちによってマレーシアの文化、伝統と環境を織り交ぜた展示が繰り広げられる。

マレーシア国外から登録する初来場者（バイヤー）にはホテル宿泊費を負担（部屋がなくなり次第終了）したり、登録済みの国外バイヤーに優先的に入国審査が受けられたりするサービスも提供している。

Wood you believe it's still in style?

木製家具が今も流行っているなんて 信じられますか？

木製家具と聞くと、多くの人が祖父母宅のダイニングルームにあったあの濃い茶色のキッチンキャビネットを思い浮かべる。クリスマスや新年などの祝祭の日に目立って見えたあのキャビネット。装飾的な取っ手を引くと、きしむ音がして、現代の住宅ではめったに見られないような無垢材の質感を今も保っている。

懐かしい一方で『木製家具はもう時代遅れになってしまったのだろうか?』と思ってしまう。

おそらく木製家具は、そのデザインというよりも受け継ぐものとして感じるのだろう。あるいは特定の所得層や特定の趣味の持ち主のためのもの、一般家庭向けではないものとして。

しかし、木製家具のリーディングカンパニーであるLB Furniture、TMH Furniture、Triswift Designsの話を聞けば、私たちの考えはすぐに変わるはずだ。この3社はマレーシアのメーカーであり、職人技、革新性、そして木材に対する新たなビジョンによって自らの地位を確立している。

マレーシアのメーカーが 木が永遠に色あせない理由を証明する



TMH Furniture
(MITEC, Hall 3, Booth M320)

木製家具が今も流行っているなんて信じられますか？

Wood You Believe It's Still in Style?

木の記憶

まず、デザインと製造の話に踏み込む前に、そもそもの疑問として、なぜ木なのか？彼らを木の仕事へと駆り立てたものは何か？3社の答えの意味は深く、心温まるものだった。

「幼い頃、アンティークの木製家具やアクセサリがあふれる家に住んでいた記憶かもしれません。時が経つにつれ、木製品が生活空間にもたらず温もりや個性を意識するようになりました」と語るのは、TM Furniture の二代目オーナー、ヴィンセント・タン氏。

Triswift Designsのマーケティング担当、ジア・ハオ氏は木材ならではの仕事を心底楽しんでいる。「木材は本物ならではの安心感と温かさがあり、生命力に満ちています。その独特の木目、質感、そして自然な香りは、それぞれの作品に個性を与えると同時に、私たちのデザインチームに無限の創造の可能性をもたらしてくれます」と語った。

LB Furnitureのゼネラルマネジャー、エスター・

アー氏も同感だという。「常に木材にひかれていました。自然で多様性に富み、時代を超えた素材だからです。一本一本の木材に個性があり、それを家具へと変え、誰かの住まいの一部となることに深い意味を感じます」

その哲学は単なる感性に留まらず、現代マレーシアにおける木材の再評価とも言えるものだ。

新たな木の表現

LB Furnitureは、子供向けコレクションも含めて、印象的な無垢材製品を開発している。「古さ」や「永続性」と結びつけられがちな世界だが、同社はまったく逆の方向で木材を解釈している。

「新しいデザインを開発する際、私たちは安全性を最優先かつ最重要に考えています。全ての二段ベッドや子供用家具が、適切な安全基準完全に満たしていることを確認してから、クリエイティブな作業へと進みます」とエスター氏は語る。

「安全性が確保された後、機能性と配慮の行き届いた製品特性、魅力的な色彩の組み合わせ、遊び心と実用性を兼ね備えたデザインに集中します。これ

によって、高品質な無垢材家具に求められる職人技と耐久性を維持することが可能となり、子どもが気に入入り、親が信頼するデザインを提供し続けることができます」

木材は単なる素材ではなく、目的そのものであることを私たちに気付かせてくれる。子どもが眠り、登り、時には騒いでも、親が安らぎを感じられるなら、その家具は素晴らしい役割を黙々と果たしているのだ。

Triswift Designsは全く異なる道を進む。

「大理石を使うことによって、デザインに新たな側面が加わり、モダンで洗練された、高級感あふれる作品を生み出せるようになりました」とジア・ハオ氏は語る。

「例えば、TS Tinnie Marbleコレクションは、自然な木目と洗練されたモダンなラインを融合させています。これは、Triswift Designsが自然の温もりと現代的な洗練さのバランスを追求しているからであり、革新的なデザインを求める当社の取り組みを体現しています」

木の可能性は限りがない。遊び心があり、ラグジュアリーで、実験的な要素も持ち合わせている。まるで木という素材が用途に順応していくかのようだ。

マレーシアで初めて曲げ木技術を導入したTMH Furnitureは、それをさらに推し進めている。

曲げ木技術がデザインへのアプローチをどう変えたか質問した際に、ヴィンセント氏は「デザインのオプションや選択の面で、可能性の世界が広がっています。ペニヤを用いることによって、無垢材では不可能だった拡張性や独自性を兼ね備えたデザインに変えることができるのです」と教えてくれた。



TMH Furniture
(MITEC, Hall 3, Booth M320)



TMH Furniture
(MITEC, Hall 3, Booth M320)

木製家具が今も流行っているなんて信じられますか？

Wood You Believe It's Still in Style?

「当社の全製品のカテゴリーは共通の理念に基づき、手頃な価格で実現できる質の高いライフスタイルにフォーカスしています。大型でかさばるジェネリック製品から、アパートメントサイズのおしゃれなデザインへと現代の若者のライフスタイルは大きく変わっています」と彼は付け加えた。

3社のメーカーに話を聞く中で、一つ明らかになったことがある。

木材は前近代的な形を維持しているわけではなく、依然として進化を続けている。技術、住宅の大きさ、そして変化する消費者の志向が、各メーカーの仕事を木材とともに形づくっている。

木材の未来

LB Furnitureにとっての興味は、社会的責任とコンプライアンスにある。エスター氏は、消費者が木材の合法性に関する透明性、より環境に配慮した梱包、廃棄物や温室効果ガスなどの排出を抑えて仕上げまで持っていくことを期待していると説明する。こうした変化を生産計画と材料調達に反映している。

Triswift Designsは、オンライン販売とより柔軟なライフスタイルの市場に向けて準備している。ジア・ハオ氏は「今後3年間で、汎用性、適応性、そしてオンライン販売チャンネルでの高い実績から、特定の場面や用途に合わせたoccasional furniture

子どもが眠り、登り、時には騒いでも、 親が安らぎを感じられるなら、 その家具は素晴らしい役割を 黙々と果たしているのだ。

の急速な成長が期待されます」と述べた。また、木材に金属、ファブリック、レザーを組み合わせたモダン・インテリアのもののづくりに注目しているという。

TMH Furnitureはデザインとアイデンティティの観点から未来を見据えている。ヴィンセント氏はマレーシアからより優れたオリジナリティーが生まれることを期待している。「若い才能を育て、業界を全く新たな次元に導けることを願っています。オリジナルデザインと職人技に焦点を当てることによって、マレーシアは世界の家具の中で際立つことができるでしょう」

時代遅れの思い込み

木製家具は時代遅れだと思込まれていることも話題に上り、三氏それぞれがそのような意見がある

ことを認めつつも、それは素材そのものというより「時代遅れのイメージ」からきているという。

人々が木製家具を時代遅れだと見ているかどうかヴィンセント氏に質問すると「ええ、そうかもしれません。しかし、温かみのある美しさを備えた住まいを求める若い世代を中心に、木製家具が復活する動きが見られます」と答えた。

エスター氏の見解はこうしたデザイン言語の変化を反映して「木製家具は時に時代遅れと見なされますが、それは実際には伝統的なデザインに由来するものであり、素材そのものからではありません」と述べた。

木のメンテナンスが買い手にとって手間がかかると思われがちだが、各氏の答えはとても明快だ。

ヴィンセント氏は「木はかつて生きていたものであり、時が経つにつれて変化し続けます。そこに美しさがあります。適切なメンテナンスは常識です。特に大切に思い長く使い続けたいものなら、なおさらです」と話した。

ジア・ハオ氏は「木製家具の手入れは簡単です。乾いた布で拭き、湿気に長時間さらさないこと。必要に応じてコースターやマットを使用してください」と手入れについて簡潔にまとめた。

そして、エスター氏はライフスパンのことを強調した。「木製家具は廃棄される代わりに、修理したり、再塗装したり、リフレッシュしたりできます」

実際に目で確かめて

彼らの意見を聞いていると、木材はもはや特定の世代や美学、時代に縛られているようには感じられない。木材はあらゆる時代や美学を超越して存在する。少なくともマレーシアでは、大理石と組み合わせたり、子ども向けの遊び心ある形に作ったり、小さなアパート向けにコンパクトにしたり、数十年前には不可能だった曲線やシルエットに加工したりできるのだ。

ぜひそれらを見てほしい。木材は説明だけでは理解しがたい。その存在感は間近に見てこそ、最もよく理解できる。

MIFF2026はまさにその機会となるだろう。業界の動向をつかみ、業界を盛り上げる人々と出会い、木材の未来を目の当たりにする場となるだろう。

ぜひご会場へお越しください。



LB Furniture
(MITEC, Hall 7, Booth M702)



Triswift Designs
(MITEC, Hall 8, Booth M807)

Workspaces That Work Better

体験よりも生産性を重視して設計された従来のワークスペースは、今となってはほとんどあり得ないものとなっている。同じ机がずらりと並び、壁は淡い白色、病院のような照明…。人が目覚めている時間のほとんどを過ごす場所のように見えなかった。そこから発せられるメッセージは単純だった。出勤し、働き、退勤せよ。

あの時代は終わりを告げようとしている。

現代のプロフェッショナルは、単に仕事をこなせる机と椅子以上のものを求めている。エルゴノミクス、適応性、そして場当たり的なものではなく、目的を持って作られたと感じるインテリアを望んでいる。壊れた肘掛けや固定式のパーテーションで区切られたスペースは、その空間がそこで働く人のことを考えて設計されたものではないことを如実に物語っている。

数字にも表れている。世界的な調査会社であるモルドール・インテリジェンスによると、アジア太平洋地域のオフィス家具市場は2025年に741億6000万米^{ドル}の規模となり、30年までに952億2000万米^{ドル}に達すると予測されている。

しかし、統計はいまここで語ろうとする物語の一部に過ぎず、ほとんどは、現代のワークスペースの外観や雰囲気を形作っているメーカー、従業員、デザイナーたちから生まれるものだ。

この変化を理解するため、さまざまな分野のリーダーたちに話を聞いた。

実際の働き方に沿うデザイン

マレーシアで最も歴史のあるオフィスチェアメーカーの一つであるMerryfairは、オフィス家具は常にワークスペースの文化と共に進化してきたという。

1974年に設立され、現在はクランに60万平方フィートの施設を構えるMerryfairは、80カ国以上に輸出を行っている。シニアセールスマネジャーのジェイソン・リム氏はこの発展を直に目撃してきた。

「上層部は以前、専用の個室を好んでいました」とリム氏は語る。「今ではオープンスペースが主流となり、上司や管理職もチームメンバーとともに座るようになりました」

ハイブリッドワークはこの変化を加速させた。オフィスはもはやかつてのような、いつも通わなくてはいけいない場所ではなくなり、家具はいまや従業員に通勤したいと思わせる役割を果たさなければならなくなった。

「多くの企業がハイブリッド勤務、あるいは週3～4日出社する形に移行しています」とリム氏は説明する。「このため、オフィスの魅力を再び高めて、従業員が戻りたくなるようなものにする必要があるのです」

その変化はレイアウトと機能に表れている。静かに仕事できる空間、空いているデスクに自由に座れるホットデスク、隔離されたフォンプース、ラウンジスタイルの共同作業エリア、そして柔軟なワークステーション。

そしてシーティングは最も厳しく審査される要素の一つだ。

「当時、椅子はただの椅子でした」とリム氏は語る。「今では人々は人間工学に基づいた座る姿勢の重要性をより意識しています。一日8時間働くなら、機能



Merryfair
(WTCKL, Hall 2B, Booth 2B02)



Stellar Furniture
(WTCKL, Hall 2A, Booth 2A01A)



Stellar Furniture
(WTCKL, Hall 2A, Booth 2A01A)



VS Office Furniture
(WTCKL, Hall 2B, Booth 2B30&2B03)

もっと快適に働ける ワークスペースを考える アジアにおける新たなオフィス家具の時代がやってきた

的で自分の姿勢に合っていて、快適なものを求めるのです」

色や素材の選択も変化しており、特にハイブリッドワークや在宅勤務の環境をコーディネートする顧客は特にこだわる。

「より家庭的な雰囲気の家具を求めている」と彼は付け加え「パステルカラー、明るいフレーム、オフィスにもリビングにも馴染むようなもの」と語った。

一方でMerryfairの研究開発チームは、人間工学と美的関連性という二つの優先事項を掲げて設計を行っている。

「現在ではヘッドレスト、背もたれ、腰部サポートなど、マルチブル・アジャストメントの設計を行っています」とリム氏は語る。「そして全てがBIFMA[®]のような国際基準に準拠する必要があります」

今後も同社はシーティングに注力していく方針だ。

「当社製品の80%はシーティング製品です」と言う。「この傾向はこれからも続くでしょう。今後のトレンドとしては、ミニマルで通気性に優れ、必要不可欠な調整機能を備えた通気性メッシュチェアが主流となるでしょう。コンパクトな空間に合うスリムなシルエツトが特徴です」

モジュール思考の台頭

VS Office Furnitureは、異なる出発点から同様の進化を遂げてきた。

1986年にセランゴール州ジェンジャロムで設立された同社は、4000平方フィートから43万5600平方フィートの規模を持つ生産施設へと成長し、ワークステーション、ストレージシステム、オフィスソリューションを世界市場に供給している。

マネージングディレクターのガン・シン・チュー氏にとって、需要の変化は構造的で行動学的なものだ。

「東南アジアで事業拡大や新オフィス設立を進める企業が増えているため、需要は拡大しています」とガン氏は説明する。「特にハイブリッドワークが一般的になる中、人々は快適性やデザインをより重視するようになりました」

ハイブリッドモデルは家具の基準を変えた。

「企業は柔軟で動かしやすい家具を求めている」とガン氏は語る。「小型のモジュール式ワークステーションが固定式に取って代わりつつある」

在宅勤務需要はパンデミック対策としての一時的なものではなく、恒久的なカテゴリとして今後も続

くだろう。誰もがそれに気づき始めている。

「家庭でもいい椅子や机が必要だ。つまり、両方の環境で機能する、実用的で快適、かつ省スペースな家具への需要が高まっているのです」

この期待に応えるため、VS Office Furnitureはモジュール式システム、人間工学に基づいたシーティング、そして実用性よりも現代的な感覚を重視することに注力している。

「私たちは顧客に寄り添い、彼らが空間をどう使うかを観察しています」とガン氏は語る。「ワークスタイルは変化し続けるため、家具も変化に対応できなければなりません」

市場ごとに、美的感覚やコンプライアンスへの期待は異なる。

「アジアでは、顧客は省スペース性と実用的なデザインを重視しています」と説明する。「欧州は持続可能性と厳格な人間工学の基準に焦点を当て、中東は高級感のある仕上げを好みます。オーストラリアは耐久性と環境に優しい素材を優先しています」

同社のロードマップはこうした変化を反映している。

「今後数年間は、モジュラー式ワークステーション、

人間工学に基づいたチェア、コラボレーティブな家具に注力します」とガン氏は付け加えた。「在宅勤務向けラインの拡充と、持続可能でスマートなデザインへの投資も進めています」

サービスとしての家具デザイン

Stellar Furnitureは、また違った視点で、変化するオフィス環境を見ている。職場にはもはや固定的な家具ではなく、ソリューションドリブン（結果起点）の環境が必要だという考え方だ。

インドで創業し、現在は中国を拠点とした2万5000平方^{メートル}の施設で事業を展開するStellar Furnitureは、100カ国以上に製品を輸出している。CEOのアリハント・ナハール氏は、同社の進化は世界のオフィス業界全体で起きている変化を反映しているという。

「今日、私たちが売っているのは単なる製品ではなく、ソリューションです」とナハール氏は語る。「ワークスペースは急速に変化しており、家具は柔軟性、体験性、そして関連性をもって対応しなければなりません」

Stellar Furnitureの最近の投資はまさにその考え方を反映している。同社は、持続可能性に関する認証、AIを活用した製品開発、国際的な人間工学基準など、市場全体が高まる期待に応えるため、新たな金型、

研究開発、コンプライアンス基準に資源を投入してきた。

ナハール氏の説明によると、アジア太平洋地域での需要は二つの方向から急増しているという。一つは、雇用主が従業員が戻すためにオフィスを再設計していること。もう一つは、職場空間に家庭レベルの快適さを求める従業員側の期待の高まりである。

「在宅勤務はさまざまな業界で職場文化の一部となっています」とナハール氏は述べる。「それと同時に雇用主は従業員が戻すためにオフィスを再設計していること。もう一つは、職場空間に家庭レベルの快適さを求める従業員側の期待の高まりでありませ

これはリム氏が指摘した内容と似ている。

ナハール氏は、シンプルでありながら高機能な家具、柔軟なワークステーションの配置、企業的な堅苦しさではなく温かみを感じさせるカラーパレットへの需要が高まっていると見ている。

「カラーパレットは完全に変わりました」とナハール氏は指摘する。「従業員は、病院的な雰囲気ではなく、居心地が良く、柔らかく、より人間味のある環境を求めているのです」

勢いを増しているカテゴリとして、コンパクトな防音フォンプースやモジュラー式で防音性の高い個室「プライバシーポッド」を挙げている。

「これらが新たな会議室として台頭しています」とナハール氏は説明する。「オフィスがオープンレイアウトへ移行し、コワーキングが普及する中、騒音を避けつつ、高額な部屋改修を必要としない集中スペースを企業は必要としているのです」

今後、同社は統合型のワークスペースパートナーとしての役割を加速させる計画だ。

「今後5年間で、単なる製造業者ではなく、設計から施工までを手掛けるソリューションプロバイダーとして認知されることを目指しています」とナハール氏は語る。

デザインされたオフィス

家具は今、より大きな思考の転換を反映して創造されている。ワークスペースはもはや従業員を収容する場所ではない。より深く考えられ、人間味あふれるものへと進化しつつある。

快適性、柔軟性、長期使用、そして職場でのより良い体験に焦点を当てた家具の潮流が生まれつつある。オフィスは、いかに人々が行動し、コラボレーションして日々を過ごすかを考えて再構築されている。

MIFF2026は、3月4日～7日にMITECとWTCKLで開催され、この話題をさらに深める場となります。交流を深め、新製品と家具デザインの未来像を共に探る場へ、ぜひご参加ください。

※BIFMA (Business and Institutional Furniture Manufacturers Association) 安全性・耐久性・性能に関する世界的な品質基準 (規格) 北米のオフィス家具業界団体で、安全性・耐久性・性能に関する世界的な品質基準 (規格) を策定・認証する機関。

参考文献
アジア太平洋地域のオフィス家具市場規模・シェア分析・成長動向と予測 (2025年～2030年)。Mordor Intelligence (モルドール・インテリジェンス)。参照先: <https://www.mordorintelligence.com/industry-reports/asia-pacific-office-furniture-market> アクセス日: 2025年11月6日

なぜ世界は マレーシア製品を 求めるのか

Why The World Wants What Malaysia Makes

furnish now cover story

それはマレーシアの輸出品が
単なる製品以上の
価値があるからだ

マレーシアを訪れたことがあればわかるだろう。この国は重層的に文化が混ざり合い、食が融合し、言語が互いに溶け合う。単一のものは何一つ存在しない。

おそらくそれが、マレーシア家具が世界のどこにでも馴染む理由だ。

多様性に富んだ場所では、場の空気を読み、適応し、誰もが納得する中間点を見出す術を学ぶ。家具に込められたその本能は、座り心地の良さとして、そしてコンテナで世界中へ運ばれる形として現れている。

あるいは、VS Concept Furnitureの「効率的な製造に国際的なテイストを融合させることで、さまざまな市場で通用するデザインを提供できるのです」という言葉でもわかる。

こうした評価を築いたのは彼らだけではない。Ecomate、HeveaPac、Seow Buck Sen Furniture、さらにはマレーシア木材産業局（MTIB）までもが、その根幹に信頼性を据えた製造文化を築いてきた。彼らが一体となることによって、世界がマレーシア製品を求める理由の一端を担っているのだ。



Ecomate
(WTC KL, Hall 3, Booth 308 & 325A)



VS Concept Furniture
(WTCKL, Hall 3, Booth 320)



HeveaPac
(WTCKL, Hall 4A, Booth 4A01)



Seow Buck Sen Furniture
(WTCKL, Hall 2C, Booth 2C10 & 2C18)

マレーシアのメーカーは いかにして迅速に信頼を獲得し それを長期にわたり維持するかを熟知している

まず、ある物語から始めよう

HeveaPacの創業者、ペー・ジュ・チャイ氏に「なぜマレーシア製品が世界中で選ばれるようになったのか」と尋ねたところ、彼はすぐには答えを返さなかった。

「まずこの話を聞いてほしい」

彼は自らの体験を語り始めた。ある若いアメリカ人バイヤーが、マレーシアのメーカーが信頼でき、アメリカでも高く評価されていると聞き、大きな期待を胸にマレーシアを訪れたという話だ。

そしてその旅は、アメリカ人バイヤーの期待を大きく上回る体験となった。

彼はHeveaPacの工場に足を踏み入れ、生産ラインを歩き、システムやペー氏の運営方法を見た。そして滞在延期を決めた。

彼はマレーシアにさらに2週間滞在し、ペー氏とそのチームと直接仕事をした。その間に4つの新製品を開発し、最初の4コンテナを出荷した。

「マレーシア家具の世界的な立ち位置をどう解釈するかは、あなた次第だ」とペー氏は言った。

彼が滞在を延ばしたのは、その職人技のおかげだったと言える。生産品質のため、あるいは完全ノックダウン製品が海を渡ってもなお精密さを保つ手法のためだったのかもしれない。おそらくそれ以上の要素が全て重なったのだろう。ただ一つだけ明確なことは、マレーシアのメーカーは、いかにして迅速に信頼を獲得し、それを長期にわたり維持するかを熟知しているということだ。

なぜ世界のバイヤーが 繰り返し取引するのか

Ecomate、HeveaPac、Seow Buck Sen Furniture、VS Concept Furnitureの各社から寄せられた事例を並べると、同じテーマが繰り返し浮かび上がる。それは「信頼性」だ。

フラットバックやノックダウン家具において、誤差は許されない。1ミリずれた穴や1本のネジの欠落が、ユーザーの期待をまったく台無しにしてしまう。

ペー氏はこの現実を踏まえて事業全体を構築した。HeveaPacが「予備のネジ」を同梱しないのは、単にその必要がないと確信しているからだ。

「組み立て式の家具はネジが1本たりとも欠けてはいけません。穴の位置が1つでも間違えば組み立てることはできません」と彼は語る。「創業以来、顧客から追加のネジを要求されたことは一

度もありません」

この確信は、彼が商品を送り届ける相手を考えればその重みがわかる。長年にわたり、HeveaPacは米国の大手小売業者や50社以上の日本企業に製品を供給してきた。そして私たちは、日本が容赦ない一貫性を持っていることを知っている。日本企業の期待に応えられるなら、おそらく誰の期待にも応えられるだろう。

シーオウ氏もこの見解に同意するが、それはシステムの観点からの発言だ。精密なCNC加工、厳格な品質管理、徹底した文書化こそがマレーシアの強みだと強調する。

「こうした強みがマレーシアのメーカーを競争力のある信頼できるパートナーにしているのです」と彼は語る。「世界のサプライチェーンが不安定になった時でさえ、国外のクライアントはマレーシアを信頼性の高い安定した調達拠点と見なしています」



Ecomate
(WTCKL, Hall 3, Booth 308)

Ecomateも買い手から同様のフィードバックを得ている。ジェイソン氏は簡潔にこうまとめる。「一貫した品質、確実な納期、そして円滑なコミュニケーション。当たり前のことのように聞こえますが、予測不可能な状況が続く現代においては『当たり前』こそが収益の源泉となります」

VS Concept Furnitureは、製品の信頼性だけでなく、パートナーシップという新たなレイヤーを加えて考える。

「顧客にとって、それは確かな品質と成長を支える製品を意味します」

彼らにとって信頼性とは、一貫した仕上げ、明確なコミュニケーション、そして適応性の高い製造プロセスからなる完全なエコシステムだ。買い手が変更を依頼した際に返すのは躊躇ではなく「もちろん対応可能です」という返答。そこにこそ買い手の信頼が生まれる。



国外の顧客は、 グローバルサプライチェーンが 予測不能になった現在でも、 マレーシアを信頼性の高い 安定した調達拠点と見なしている

なぜ世界はマレーシア製品を求めるのか

Why The World Wants What Malaysia Makes

「タンガム」が支えてくれる

マレーシア木材産業局（MTIB）の例が、あまりにもぴったりなのでここで紹介したい。

「マレー語でtanggam（タンガム）とは、二枚の木材を接合することを意味します。伝統的なマレーの家屋は釘を使わず建てられていたため、全てがタンガムに依存していたのです」と、ファリダトゥル・ナズリー氏は説明しながら、両手で接合部の形を表現した。彼女は現在MTIBの副局長（開発・商業担当）を務めている。

単純に聞こえるが、タンガムが機能するのは、パーツが丁寧に形作られ、位置合わせされ、意図的に組み合わせられた場合のみである。片方が規格外であれば、全体が失敗に終わる。

マレーシアの家具産業エコシステムも同様の仕組みで機能している。

物理的な製品を製造するのはメーカーだが、彼らは孤立して活動しているわけではない。MTIBは、業界全体を支える基盤として機能し続けている。木材の合法性を規制し、輸出の枠組みを強化し、国際認証の推進に努め、EU、日本、英国、米国などの市場に適合した基準を策定している。

その取り組みによって、マレーシアは単に家具を輸出するだけでなく、世界の厳しい規制に耐えうる家具を作っている。

そこにはデザインもある。デザイン育成プログラムの「TANGGAM」などを通じて、MTIBは業界をOEMからODMへ、最終的にはOBMへと導こうとしている。デザイナーと工場を結びつけ、能力育成プログラムに資金を提供している。

これこそが真の「TANGGAM」だ。政策、製造業者、デザイナー、そしてバイヤー。それぞれが互いを成長させ、次へと繋がる。

「マレーシア製」が意味するもの

今や明らかになったのは、マレーシアの家具が単なる素材や価格帯、製造能力で定義されるものではないということだ。業界の在り方そのものがその本質を形作っている。

世界がマレーシアのメーカーに繰り返し注目する理由を理解したいなら、机上の理論に答えはない。関係者が一堂に会する環境下で、このエコシステムがどのように機能するかを実際に目にしてみたい。

2026年3月4日～7日にMITECとWTCKLで開催される展示会でそれが確認できる。マレーシア家具が世界における地位を確立し続けるための、新たな一歩となるだろう。



なぜ世界はマレーシア製品を求めるのか

Why The World Wants What Malaysia Makes



目に見えないAIの進化

AIに関するニュースの見出しは、想像を絶する技術の進歩が私たちの生活を支配するのは、時間の問題であるかのように誇張しがちだ。

しかし現実には、最も意味のある変化が静かに始まっている。家具やライフスタイル産業にとって、革命というより進化といえる。それはビジネスの仕組みから始まる変革である。

具体的には、無駄を減らすスマートなプロセス、市場の変動に適応するシステム、透明性と説明責任を高めたサプライチェーン、そして人と環境の双方に利益をもたらす働き方といった形をとっている。

MIFF2026に出展する2つのブランドが、簡素で実用的なアプローチを体現している。

ニトリ:品質を最優先に

アジア太平洋地域に1000店舗以上を展開する日本の小売企業ニトリは、この控えめな進化の好例だ。欧州へ市場拡大する中でも、ニトリは知名度向上のためだけに流行を追うことなく、日本が世界的に知られる「長く続く職人技の品質」を堅持し続けている。

約5万9千人の従業員を擁する組織にとって、新興テクノロジーへの方向転換は容易ではない。ニトリはより着実な道を選んでいる。生産工程の洗練、管理フローの効率化、内部システムの混乱を取り除くことにより組織全体が、十分に調整された一つのエンジンとして機能できるようにしている。

従って消費者がニトリでスマートホーム製品を目にする日はまだ先かもしれない。すでに同社が提供しているブランドはすべて廃棄物を抑えて無駄なく作られ、品質を守りながら生産量を増やすことを実現している。誰もが見ることはできないが、誰もがその恩恵を受けている。

Isella Sofa Design: 技術は職人技に奉仕する

Isella Sofa Designはマレーシアのブランドとして、国際的な存在感を着実に高めている。AI家具を急いでリリースするのではなく、同社は「インテリジェント・クラフトマンシップ」と呼ぶ指針に基づいて運営している。

Hey Siri

スマートな暮らしは

もはや単なる利便性ではなく、

消費者にとってより大切な仕事をして、

ビジネスに最適化する技術へと進化している

私の将来はバラ色ですか？

このアプローチでは、職人技が最優先される。そのプロセスを補完するテクノロジーは、決して第一に優先されるものではない。

あらゆるツール、インテグレート、イノベーションは、まず同社が「エクスペリエンス・エコシステム」と呼ぶものに適合しなければならない。もしデザインプロセスの強化に至らず、品質を高めず、ユーザー体験を豊かにしない場合、そのテクノロジーは採用されることない。

同社は次のように的確に表現している。「よりスマートで便利な生活への需要がある限り、業界は技術を統合する方法を見出すだろう。そして私たちの役割は、その統合された体験の中心に家具を据えることだ」

MIFF2026でエンドユーザー向けソリューションを提供する2つのブランドを紹介しよう。もちろん、消費者向けのイノベーションを既に構築しているブランドも存在する。それらは、日常生活を目立たずに改善して、より微妙な進

み方をしているように見える。

Luxury Sleep: 休息のパーソナライズ

マレーシアを代表する寝具メーカー、Luxury Sleepは、このやり方でSleep to Live®研究所の科学者たちとAi BedMatch™システムを共同開発した。

このシステムは5分以内に、圧力分布、脊椎アライメント、体型、睡眠姿勢を測定する。独自のアルゴリズムを用いて、ユーザー一人ひとりに最適なマットレスをお勧めすることで、混乱しがちなマットレス選びの難しさを解消している。

マットレス購入に関する意思決定を改善することで、ユーザーの95%がより休息感を得られ、79%が痛みや不快感の軽減を報告し、76%が睡眠障害が減少、75%がパートナーの睡眠妨害の減少を実感している。これらの結果は決して軽視できるものではな



Nitori
(MITEC, Hall 1, Booth M116)



Nitori
(MITEC, Hall 1, Booth M116)



Isella Sofa Design
(MITEC, Hall 7, Booth M718)

いが、同社は、人々がスマートリビング製品の価値をまだ十分に理解していない可能性があるという。

「多くの消費者は、スマートテック家具の長期的なメリットを理解するのに苦労しています。一見して価格が高く感じるとなおさらです。テクノロジーによって精度、快適性、パーソナライゼーションがいかに向上するかわかれば、その価値が十分明確になります」

JIECANG:スタンディングデスクの完成形

上海を拠点とするリアモーションテクノロジーのリーダーであるJIECANGは、ビジネスの世界において、段階的な改良が、華々しい製品のお披露目と同じくらいの変革をもたらすことを示している。

おそらく今回最大の企業であるJIECANGは、60万平方メートルを超える敷地面積と、世界中に4500人を超える従業員を擁し、36億人民元の



売上高を誇る。

しかし同社は新たな発明ではなく、新技術を導入して既存の優れた製品をさらに磨き上げる道を選んだ。JIECANGは、スタンディングデスクの細部にこだわりのような改良を重ねている。

- 内蔵型ブラシレスモーター
- ケーブルレス構造のすっきりしたデザイン
- 高度化されたデータ分析機能
- リモート診断とOTAアップデート

JIECANGオフィス事業部門のCEOであるDZ・ウー氏は、AIが全体の進歩を可能とする点について、次のように述べている。

「AIと高さ調節可能なデスクシステムのインテグレーションは、インテリジェントな顧客サービスからスマートオフィスの自動化のシナリオまで、数多くの可能性を開拓している。これらの革新は、業界の高度なインテリジェンスとスマート・ワークスペース・エコシステムへの移行をさらに加速させるでしょう」



MIFF 2026で未来を体感

家具は一見「ハイテク」とは程遠いように見えるかもしれないが、JIECANG、Luxury Sleep、Isella Sofa Design、ニトリといったブランドは、スマートライフがいかに静かに、賢く、そして確実に私たちの家庭やオフィスに浸透していく道筋を示している。

マレーシア国際家具見本市 (MIFF) 2026で、彼らをはじめとするイノベーターたちの全ラインアップをご覧ください。2026年3月4日~7日まで、世界中の家具業界が一堂に会し、未来のトレンドを発見し、交流し、共有する場であるMITECとWTCKLにぜひお越しください。



Luxury Sleep
(MITEC, Hall 5, Booth M515)



Luxury Sleep
(MITEC, Hall 5, Booth M515)



Luxury Sleep
(MITEC, Hall 5, Booth M515)

MIFF2026

マレーシア国際家具見本市 2026年3月4日～7日開催



MITEC



WTCKL

- 主催 インフォーマ・マーケット・マレーシア
開催日時 2026年3月4日（水）～7日（土）
午前9時30分～午後6時（7日は午後5時まで）
会場 マレーシア・インターナショナルトレード&エキシビションセンター（MITEC）
8 Jalan Dutamas 2, 50480 Kuala Lumpur
世界貿易センタークアラルンプール（WTCKL）
41 Jalan Tun Ismail, 50480 Kuala Lumpur
両会場間は無料シャトルバスが運行
展示面積 100,000平方メートル
出展国・地域 マレーシア、中国、台湾、インドネシア、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、韓国、日本、その他
来場見込み 20,000人
交通 クアラルンプール国際空港内に設けられたMIFF優待カウンターで会場やホテルへのタクシーなどを手配できる。
WTCKLまで車の場合、道路の混雑具合にもよるが所要時間は約1時間。鉄道の場合、最寄り駅はLRT Rapid KL（高架鉄道）のPWTC駅。
ウェブサイト <https://miff.com.my/>



furnish nowはマレーシア国際家具見本市（MIFF）を主催するインフォーマ・マーケットが毎年発行する全36ページのマガジンとして全世界で読まれています。MIFFのパートナー・メディアである家具新聞は、その優れたコンテンツに注目して、furnish nowから記事を厳選して日本の皆さまにお届けしています。



発行所 家具新聞社

発行人 小田部亨

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町6-2 日本橋遠綿ビル4階

電話 (03) 6262-8330(代) FAX (03) 6369-3040

E-mail: kagu-news@seisaku-center.co.jp